

う学んだらよいか」について研究協議する。

- ② 青年学級生相互の交流を図り、新しい仲間づくりと友情を深める。

(3) 期日・会場・参加者

- ① 期 日 昭和51年11月25日～28日 3泊4日  
② 会 場 福島県海浜青年の家  
③ 参加者 県内青年学級生および青年教室生等の代表者  
社会教育行政担当者、青年学級担当者 88名

(4) 講 師

福島県文化センター総務部長 丹野清栄  
モンリオール・オリンピック  
女子ハンドボール日本代表 古佐原ひろ子

(5) 助言者

福島県教育庁社会教育課 社会教育主事  
福島県教育庁各教育事務所 社会教育主事  
福島県公民館連絡協議会 関係者  
福島県海浜青年の家 指導職員

(6) 研修内容

- ① 講 義 「青年学級のあゆみに思う」  
② 講 演 「モンリオールへの道」  
③ 討 議 「青年学級で何をどう学ぶか」  
3分散会 担当者部会  
④ 野 外 活 動 オリエンテーリング  
⑤ そ の 他 ○交歓のつどい  
○ゲ ー ム  
○ダ ンス  
○キャンドル・サービス

に、共同宿泊研修をとおして新しい社会人、職業人としての自覚と誇りを持たせると共に相互の交歓を図り、社会参加への意欲を高めることをねらいとする。

(2) 期日・会場・参加者

- ① 期 日 昭和52年2月23日～25日 2泊3日  
② 会 場 福島県海浜青年の家  
③ 参加者 昭和52年3月高等学校を卒業して県内外に就職するもの（自営者も含む） 67名

(3) 講 師

福島県教育委員会委員 坪井孚夫  
福島県教育庁社会教育課長 佐藤利三郎  
相馬民謡同好会師範・同副会長 桃井可生

(4) 助言者

相双地区高等学校進路指導協議会関係職員  
福島県海浜青年の家 指導職員

(5) 研修内容

- ① 講 話 「新就職者に期待する」  
② 講 義 「青年活動と社会参加」  
③ 先輩からの提言  
「自信をもってスタートするために」  
④ 討 議 先輩からの提言を受けて話し合い  
3分散会  
⑤ 実 技 ○交歓のつどい  
○オリエンテーリング  
○郷土芸能——相馬民謡と踊り  
○キャンドル・サービス

## 6 昭和51年度高校生就職者のつどい

(1) 趣 旨

来春高等学校を卒業し、就職を予定している生徒を対象